

令和3年度

「運営に関する計画・自己評価」
(最終評価)

大阪市立玉造幼稚園

令和4年3月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 本園は、広い敷地の中に、多種類の木々や、築山、池、芝生がある起伏に富んだ園庭があり、自然環境に恵まれている。その中で、子どもたちは思う存分体を動かして遊び、園生活を楽しんでいる。しかし、広い場での多岐にわたる遊びにおいて安全への意識が不十分なところがある。そこで、全教職員が共通理解し、子どもたちと話し合いながら遊びのルールづくりを進めるなど、安全への意識を高めていきたいと考えた。
- 園生活に入るまでの子どもたちは、個人差はあるが、限られた人とのかかわりの中で育ってきている。園生活が始まり、今までに関わったことのない人に出会うと、どうしてよいかわからず戸惑っている姿が見られる。まずは、幼稚園生活を安心して過ごせるように、互いにまるごと受け入れられる人間関係を築きたいと考えた。そして、自分の思いを出したり、相手の思いに耳を傾けたりしながら、教え合ったり助け合ったりする子どもに育てていきたい。
- 本園の子どもたちは、大人と話をすることは好むが、いざという場面ではっきりと思いを出しにくい姿があるように感じる。大人が子どもの思いを先にくみとってしまわないように保護者に啓発するとともに、日々の様々な活動を通して、自分の思いや考えをのびのびと表現する子どもを育みたい。
- 子どもたちは、身の回りの清潔に関する基本的な生活習慣は身に付けている。しかし、自分に健康についてはあまり関心がないように思う。また、椅子に座って話を聞くときの姿勢が、あまりよくないと感じる。園では、子どもたちが自分の健康に興味や関心を持ち、自ら必要性を感じたり友達と一緒にやってみようという意欲をもったりしながら、生活習慣やよい姿勢を身に付けられるよう、家庭と連携しながら保健指導に取り組みたい。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 令和3年度の保護者向けのアンケート調査で、「安全な生活に必要な習慣が身についていますか」の項目について、肯定的回答の割合を80%以上にする。
(令和2年度に目標達成)
- 令和3年度保護者向けのアンケート調査で、「幼稚園は、相手のことを思いやって、かかわろうとする子どもに育てようとしていますか」の項目について、肯定的回答の割合を85%以上にする。(令和2年度に目標達成)

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 令和3年度の保護者向けのアンケート調査で、「様々な活動を通して、自分の思いや考えを表現することを楽しんでますか」の項目について、肯定的回答の割合を85%以上にする。(令和2年度に目標達成)
- 令和3年度の保護者アンケート調査で、「幼稚園は、子どもが基本的な生活習慣を身に付けるように努めている」の項目について、肯定的回答の割合を80%以上にする。
(令和2年度に目標達成)

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 令和3年度の保護者向けのアンケート調査で、「安全な生活に必要な習慣として、新しい生活様式が身に付きましたか」の項目について、肯定的回答の割合を80%以上にする。
- 令和3年度保護者向けのアンケート調査で、「年度当初よりも、自分の思いを伝えたり、相手の思いを聞いたりして、互いにまるごと受け入れ助け合う気持ちをもつようになりましたか」の項目について、肯定的回答の割合を85%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 令和3年度の保護者向けのアンケート調査で、「年度当初よりも、様々な活動の中で、自分の思いや考えを表現し、人と関わることを楽しむようになりましたか」の項目について、肯定的回答の割合を85%以上にする。
- 令和3年度の保護者アンケート調査で、「幼稚園は、子どもが自分の健康に興味や関心をもつように努めている」の項目について、肯定的回答率の割合を80%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ・昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症予防に向けた様々な対策を行った。マスクをはずしたときの間隔の取り方や黙食など、子ども一人一人が意識をもって生活ができるようになってきた。
- ・子どもたちが安心して園生活が送れるような教職員の受け止めや、互いに受け止め合う関係が築けるような言葉がけや働きかけにより、一人一人が自分らしく、また自分と違う友達を受け入れ、助け合う姿が見られるようになった。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ・子どもたちが様々な場面で自己を発揮し、自分の思いや考えを表現できるように、環境や働きかけを工夫した。遊びの中で友達から刺激を受け、次々と遊びを発展させていく姿が多くの中で見られ、友達と一緒に遊ぶ楽しさを十分に感じて過ごすことができた。
- ・毎月の保健指導では、子どもの実態や発達段階に合わせた視覚的な教材を用意して指導することで、子どもにとって理解しやすく、印象に残る指導となった。また、指導内容を保健日より保護者に伝えることで、家庭とも連携して指導することができた。
- ・姿勢の指導においては、意識するとよい姿勢で話を聞ける子どもが増えた。ただ、姿勢の維持が難しく、教職員も意識して言葉がけをしていく大切さを感じる。

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>○令和3年度の保護者向けのアンケート調査で、「安全な生活に必要な習慣として、新しい生活様式が身に付きましたか」の項目について、肯定的回答の割合を80%以上にする。</p> <p>○令和3年度保護者向けのアンケート調査で、「年度当初よりも、自分の思いを伝えたり、相手の思いを聞いたりして、互いにまるごと受け入れ助け合う気持ちをもつようになりましたか」の項目について、肯定的回答の割合を85%以上にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策2 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>感染症対策として、マスクの着用、手洗いうがい、手指の消毒、密を避けるなどの新しい生活様式の定着を図る。</p> <hr/> <p>指標 今年度末の保護者アンケートで、「安全な生活に必要な習慣として、新しい生活様式が身に付きましたか」の項目について、肯定的回答の割合を80%以上にする。</p>	A
<p>取組内容②【施策3 道徳心・社会性の育成】</p> <p>自分の思いを出し、互いにまるごと受け入れ、助け合えるクラスづくりに努める。</p> <hr/> <p>指標 今年度末の保護者アンケートで、「年度当初よりも、自分の思いを伝えたり、相手の思いを聞いたりして、互いにまるごと受け入れ助け合う気持ちをもつようになりましたか」の項目について、肯定的回答の割合を85%以上にする。</p>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>取組内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学期は、感染症予防のための手洗いやうがい、マスク着用の仕方などを保健指導で伝えた。その後、手洗いやうがいへの意識が高まり意欲的に行ったり、子ども同士で鼻までマスクをすることを伝え合ったり、自分で気を付けたりする姿が見られた。 ・春は戸外でもマスクを着けていたが、夏は熱中症にならないように戸外では外した。涼しくなってからはリレーや縄跳びなどの激しい活動以外は着けるように指導したことで、自分で考えてマスクの着脱を行うようになった。 ・手指の消毒液を玄関、保育室の前の他、共用遊具の側にも設置した。積極的に消毒する姿が見られた。 ・保健指導で人との間隔のとり方についても伝えた。また、どのぐらいの間隔が必要かを保育の中で実際に伝えて感覚的に理解できるようにし、自分たちで意識し考えて行動するように指導したことで、自分で気付いたり、子ども同士で声をかけ合ったりして間隔をあける姿が見られるようになった。 ・昼食時は、同じ向きを向いて座り、話をせずに食べることを指導した。1学期は、食べているときは静かだが、食べ終わってからマスクを着けないまま話をする姿が見られていた。2学期からは食べ終わったらすぐにマスクをするように声をかけることで、子どもが

意識してマスクをしてから話すようになった。

- ・以上の取組の結果、令和3年度の保護者向けのアンケート調査で、「安全な生活に必要な習慣として、新しい生活様式が身に付きましたか」の項目について、肯定的回答の割合は99%となり、目標を達成した。

取組内容②

- ・新年度、入園やクラス替えなどで、子どもたちにとっての環境が大きく変わった。子どもたちが安心して過ごせるように、まずは子どもたちと担任との信頼関係が築けるようにした。好きな遊びの時間を十分に確保し、その中で、それぞれが何に興味をもっているか、誰と遊んでいるかなどを把握し、一人一人に合った働きかけを心がけることで、安心して園生活が送れるようになっていった。
- ・各年齢の実態に合わせたクラスの話し合いや、日々の振り返りの中で、子どもの発言をまずは教師が受け止め、自分の思いを素直に言えるような雰囲気づくりに努めた。また、子どもの発言に対して、共感したり、違う考えを知らせたりする場面を設けることで、いろいろな考えがあることを知り、友達の思いをしっかりと聞くようになり、質問したり認める言葉をかけたりする姿が増えてきた。
- ・子どもが知らせたことをまず受け止めるように努めたことで、困っていること、知らせたいことを自分から発信するなど、安心して自分の思いを出すことができる子どもが多く見られるようになった。また、そのような友達を見て、声をかけたり、助け合ったりする姿も見られている。さらに、いざこざがあったときには、子どもたち同士で話し合ったり、友達の気持ちを代弁したりして解決していく姿が見られるようになった。
- ・子どもたちの中には、まだなかなか思いを出しにくい子どもがいる。また、相手によっては『やってあげる』『教えてあげる』という姿勢で関わろうとする子どももいるように感じる。子どもたちが、それぞれを認め合い、同じ目線で物事を考えて過ごせるように、しっかり様子を見ていくことが来年度も必要である。
- ・以上の取組の結果、令和3年度保護者向けのアンケート調査で、「年度当初よりも、自分の思いを伝えたり、相手の思いを聞いたりして、互いにまるごと受け入れ助け合う気持ちをもつようになりましたか」の項目について、肯定的回答の割合は100%となり、目標を達成した。

次年度への改善点

- ①子ども自身が感染症対策に対して意識して行動できるようになったので、次年度も引き続き感染症の状況に合わせ教職員間で話し合い、子どもたちが安全に過ごすための指導を行う。
- ②今年度の結果や、教職員全体で子ども理解したことをしっかりと来年に引き継ぎ、一人一人の思いをしっかりと見つめながら、適切な援助ができる体制を次年度も整えていく。

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>○令和3年度の保護者向けのアンケート調査で、「年度当初よりも、様々な活動の中で、自分の思いや考えを表現し、人と関わることを楽しむようになりましたか」の項目について、肯定的回答の割合を85%以上にする。</p> <p>○令和3年度の保護者アンケート調査で、「幼稚園は、子どもが自分の健康に興味や関心をもつように努めている」の項目について、肯定的回答の割合を80%以上にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策4 全ての基礎となる幼児教育の質の向上】</p> <p>自分の思いや考えを表現したり、友達と遊びを広げたり深めたりする楽しさが感じられるような保育内容や環境構成を工夫する。</p> <p>指標 年度末のアンケート調査で、「年度当初よりも、様々な活動の中で、自分の思いや考えを表現し、人と関わることを楽しむようになりましたか」の項目について、肯定的回答の割合を85%以上にする。</p>	A
<p>取組内容②【施策6 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>子どもが自分の健康に興味や関心をもつような保健指導を工夫する。また、よい姿勢を知り、身に付け、意識して維持できるような指導を継続して行う。</p> <p>指標 ・年度末のアンケート調査で、「幼稚園は、子どもが自分の健康に興味や関心をもつように努めている」の項目について、肯定的回答率の割合を80%以上にする。</p> <p>・教職員による実態調査で「子どもはよい姿勢で話を聞くことができている」の肯定的回答の割合を80%以上にする。</p>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>取組内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> 1学期は、子どもが自ら遊びを工夫できるように、色水遊びや泥遊び、泡遊びなどの園庭の環境を整えた。全園児が同じ場所で遊べるようにしたことで、異年齢の子どもが関わって遊び、互いに刺激を受けてまねたり教え合ったりするなど、子どもの経験が広がった。 2学期は、運動会で1学期の生活経験や子どもたちの興味や関心に合わせた活動を取り入れ、身体表現や友達との関わりを楽しんだ。3歳児は絵本「はらぺこあおむし」に親しんでおり、さらにアオムシを飼育する中で気づきや感動を友達や先生に伝えて楽しんできた。これらの経験を運動会で取り入れ、全身を使って表現を楽しんだ。4歳児は虫に興味をもつ子どもが多く、個人の虫かごをもって友達と一緒に虫探しをしたり、保育室で飼育したりしたことを取り入れ、いろいろな虫の表現を楽しんだ。5歳児は東京オリンピックに興味をもったことから、様々な運動遊びに挑戦できるような活動を取り入れた。その中で友達が頑張っている様子にも気付けるように互いに紹介し合う機会をもつことで、友達を認めたり、自分もできるようになりたいと意欲を高めたりする姿が多く見られた。運動会当日もそれぞれが力を発揮し、みんなで力を合わせて頑張る心地

よさや、達成感を感じる事ができた。

- ・ 展覧会に向けての活動を通し、年長児はみんなで一つのものをつくり上げるという意欲が高まり、自分たちで考えたことを実現して達成感を味わう姿が見られた。3歳児、4歳児もクラスでお話のイメージを広げながら、自分なりに考えたことをつくって表現することを楽しんだ。
- ・ 展覧会后、各クラスで楽しんでいた遊びを広げ、異年齢での関わりをもてるよう、自由に保育室を行き来できる時間を繰り返し設けた。継続して遊ぶ中で、年長児が異年齢児に教えたり、遊びの中での新しいアイデアが生まれたりし、互いにより刺激になった。また、年長児は年少中児に対して優しく接し、年少中児は年長児への憧れの気持ちを持ち、異年齢での交流が深まった。その後、自由な遊びの時間にも積極的に異年齢で関わる姿が見られるようになった。
- ・ 3学期には、それぞれのクラスで展覧会から継続したお話の劇遊びを楽しんだ。遊びを進める中で、遊びに必要なものや、体や言葉での表現方法など、子どもが考えを出し合って相談し、決まったことをみんなで共有できるようにした。友達と一緒に遊んだり、劇遊びを進めていったりする楽しさや満足感を味わう姿が見られた。
- ・ 以上の取組の結果、令和3年度の保護者向けのアンケート調査で、「年度当初よりも、様々な活動の中で、自分の思いや考えを表現し、人と関わることを楽しむようになりましたか」の項目について、肯定的回答の割合は100%となり、目標を達成した。

取組内容②

- ・ 園や子どもの実態に応じて、感染症予防や歯、安全、食育などの保健指導を行った。子どもが興味や関心をもてるように、視覚的な教材を取り入れることを心がけた。
- ・ 7月に実施した爪の保健指導では、爪を切るタイミングを知らせるために、養護教諭の爪を伸ばして子どもに見せた。指導後に保護者から、「家でも自分や家族の爪をチェックしている」との声が聞かれた。
- ・ 1月に行った咳エチケットの保健指導では、せきやくしゃみの飛沫がどのくらい飛ぶかを知らせるために2mと3mのテープを使用した。養護教諭の口元からテープを子どもが引っ張ることで、イラストで見るよりも分かりやすく伝わり、子どもたちは「こんなに飛ぶんだ」と驚いている様子であった。
- ・ 以上の取組の結果、令和3年度の保護者アンケート調査で「幼稚園は、子どもが自分の健康に興味や関心をもつように努めている」の項目について肯定的回答の割合は96%となり、目標を達成した。
- ・ 姿勢については、1学期と2学期に保健指導を実施し、毎月の保健指導を始める前には、正しい姿勢で話を聞くことを伝えた。また、保育の中でも正しい姿勢で話を聞くことを意識できるように、担任からも声かけを行った。継続した指導をすることで、特に年長児では、声をかけなくてもよい姿勢を意識できている子どもの姿が見られるようになった。教職員による実態調査の結果、「子どもはよい姿勢で話を聞くことができている」の肯定的回答の割合は89%となり、目標を達成した。

次年度への改善点

- ①次年度も、子どもたちが自分の思いを表現し、友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じられるように子どもの実態に合った保育内容や環境構成を工夫し、実践していく。
- ②次年度も園や子どもの実態に応じた保健指導の工夫を行っていく。
姿勢については、話の途中で姿勢が崩れてくる姿が見られるので、保健指導を工夫したり、担任と連携を図りながら、よい姿勢を意識できていることを認めたり、よい姿勢を維持できるように声かけを行ったりしていく。